

令和2年度 いわき市まちづくり・未来づくり講演会

本会では市の委託を受けて、11月に講演会を企画しています。いわき市は、10年前の東日本大震災、そして昨年度の令和元年東日本台風(台風19号)と、2度の大きな自然災害を体験したまちです。災害に備えることの大切さを身に染みて感じている市民は多いと思います。

そしてコロナウイルス感染症の拡大防止を心掛けた暮らしが求められている今、次の災害への備えにも、コロナ禍の中であることを意識した対応が求められることになります。そこで、本会では、今年8月24日と10月13日にいわき市「まち未来創造支援事業」の助成を受け、災害支援団体向けの研修会を開催。その経験を生かして11月にいわき市主催、ザ・ピープル主管事業として、「コロナ禍の中で災害にどう向き合うか？みんなで考える講演会」を開催することになったものです。次の災害に備える意味でも、是非、参加をご検討下さい。

令和2年度 いわき市まちづくり・未来づくり講演会
**コロナ禍の中で災害にどう向き合うか？
みんなで考える講演会**

コロナウイルス感染の拡大防止が急務となる中、自然災害が発生した際の避難準備(避難指示)の支援にどう向き合うか？講演会を開催します。
実際に令和元年東日本台風(台風19号)の被災地となった茨城県大子町や千葉県君津市において支援活動を行ったNPOの経験から地域の復興をどう進めるか、さらに参加者自身が自分ごととして考えながら話し合うワークショップの開催も盛り込みます。

◆日時 **11月23日(祝) 14:00~16:30**

◆会場 **チームスマイル いわきPIT**
TEL:0246-38-3825 FAX:0246-38-3827
(いわき市平塚宜町5-13)

◆定員 **会場参加は50名(オンライン参加アリ)**

◆対象 **どなたでも参加できます**
特に令和元年東日本台風における被災者支援経験のある方
いわき市内で災害対応の活動を行っている方はぜひご参加下さい

◆講師 **認定NPO法人 いわきが未来を創るNPO 代表 久家誠司 氏**
一般社団法人 ピースボート災害支援センター 代表 倉上勲 氏
茨城県防災協議会 代表 伊藤孝子 氏
ザ・ピープル事務局 代表 佐藤 孝二 氏

◆参加費 **無料**

◆申込み方法 事前申込制(申込書・参加費の領収書が必要)です
申込書は、事務局(〒306-0811 茨城県水戸市東区南町1-1-1)または
FAX:0246-92-4298 へ送付して下さい。開催日の前週(11月16日)まで
E-mail:the-people@mail.itala.or.jp

主催：特定非営利活動法人ザ・ピープル
協力：令和2年度日本台風、いわき市被災者支援推進共有協議会
後援：社会福祉法人いわき市社会福祉協議会

(会場住所:いわき市平塚宜町5-13)

若者向けの#furugi#furugi#furugiを販売!

ピープルでしばらくインター生として活動していた若者を中心に企画していたアイデアが、10月からイベントとして期間限定で実現することになりました。

その名も#furugi#furugi#furugi…。なんとも奇抜なネーミングです。地域の中で回収された古着の中でも、若者向けの物ばかりをセレクトして、いわき駅前の空き店舗を活用して販売してみようということになったのです。

#furugi#furugi#furugi

10/4 SUN 10/18 SUN 10/25 SUN 10:00 - 17:00




主催：特定非営利活動法人ザ・ピープル
協力：特定非営利活動法人ザ・ピープル
〒306-0811 茨城県水戸市東区南町1-1-1 TEL:0246-92-2811 FAX:0246-92-4298

▲案内チラシ(店舗住所:いわき市平字大工町11-1)

友人に会うと最初に交わす言葉が「体調どう?」である。昨年末では、「こんなに疲れなかったのに一年と言えないよね」が合言葉になっていく感じ。▼先週、腰痛がひどく静養した際「年齢的に言っても静かな生活を送ることに」と若いお医者さんから言われた。別に走り回っている訳ではないです」と反論したかったが、「一刻も早く痛みから開放されたくて素直にシツツ薬をもらいたい、時々リハビリに通ったことになった▼それにしてもこの2カ月間、私自身の体調の変化、出来事は何だったのだからかと思議でならない。良くも乗り越えたとながら驚いている。常に脈拍は100以上。夜になると血圧は200近くになる。すると頭の中が騒々しくなる。顔面は目を吹き出すほど熱くなる。朝方目を覚ましたときにはあゝ生きていたとホッと胸を撫で下ろす。降圧剤を服用し、ようやく安定した時つぶやいた言葉は「世の中こんなに静かだったかしら?」であるから笑ってしまった。約50日ぶりに元通りの体調に戻ったがその間、家族同僚、友人に大変な心配を掛けてしまった▼若い頃健康保険証を一年間使わず共済組合から表彰された事があったのに、近頃は数カ所の通院が必要となってしまった。そんな私に友人は、「80の坂を越えるまでが厳しいのよ、その坂を越えれば後はすずと楽になるんだって」と励ましてくれる▼ところで170年にベスト、180年にコレラ、190年にスペイン風邪、200年は新型コロナウイルスの蔓延。この流れをパンデミック100周年期説と言ふこと。「コロナ禍真っ只中、大変な時代に我々は生きていくのだ▼地球の未来の力基は環境問題にあることは確かである。数百年間感染症との戦いに挑み勝ち抜いてきた人類だが、これからは環境問題への一人一人の意識と取組みこそが大事なのだと思う。それが「新しい生活様式」の実践だと痛感する日々である。」(K)

リサイクルフェアでウェディングドレスを提供??

10月11日(日)クリンピーの家で開催されるリサイクルフェアは、企業団体など9社が環境への取組を展示するイベントです。

今年はコロナウイルスの心配から人気のバザー等を取りやめとなりました。ピープルでは古着とはいっても使用しなくなった素敵なウェディングドレスを展示し、来場者に提供することにしました。ピープルがドレスを!?!不似合いかもしれませんが、先般産業廃棄物事業者から処分するのは勿体ないと頂いたものです。ただ展示するだけではなく、本会が一昨年より始めたフードバンク事業に生かしてみたいです。この事業を理解していただくため、当日ボックスを設置しフードドライブを実施。食品の提供をしてくださった方々に抽選でお渡しします。勿論サイズはなかなか合わないと思いますが、お部屋に飾れば華やかで幸せな気分になること請け合いです。

サイズが合えば結婚式の披露宴や、文化祭での活用など色々楽しいアイデアが浮かぶかもしれません。活用を希望される方は事務局までご連絡下さい。



▲抽選用のドレス

おさがりバザー開催!!
& フードドライブ開催!!

日時 **11月14日(土) 午前10:00~午後2:30まで**

場所 **みんなの交流館** 〒972-8316 いわき市常盤西郷町落合278

フードドライブ
ご家庭で残った食料品がございましたら是非お持ち下さい。

おさがりバザー
お子さまの古着約2000部を100円〜販売いたします。

会場のご案内
※コロナ対策のため、会場内には10名ずつの人数制限を設けます。また、住所・氏名・連絡先を記入したお名前カードを会場内に必ずお持ちください。お申し込みは、お申し込み書に記入の上、事務局へお送り下さい。

主催:中野由香 特定非営利活動法人ザ・ピープル
〒972-8316 いわき市常盤西郷町落合278 TEL:0246-92-2811 FAX:0246-92-4298

▲案内チラシ(会場住所:いわき市常盤西郷町落合278)

私たちの活動を会員として支えて下さい。
会費納入をよろしくお願い致します。

活動会費 (実際に活動に参加される方と、会報購読という形で支援して下さる方) **2,000円/年**

賛助会員 (資金的な面から支えて下さる方と法人・団体会員) **10,000円/年**

郵便振替 (02110-0-24908) でお送り下さい。

つぎは

友人に会うと最初に交わす言葉が「体調どう?」である。昨年末では、「こんなに疲れなかったのに一年と言えないよね」が合言葉になっていく感じ。▼先週、腰痛がひどく静養した際「年齢的に言っても静かな生活を送ることに」と若いお医者さんから言われた。別に走り回っている訳ではないです」と反論したかったが、「一刻も早く痛みから開放されたくて素直にシツツ薬をもらいたい、時々リハビリに通ったことになった▼それにしてもこの2カ月間、私自身の体調の変化、出来事は何だったのだからかと思議でならない。良くも乗り越えたとながら驚いている。常に脈拍は100以上。夜になると血圧は200近くになる。すると頭の中が騒々しくなる。顔面は目を吹き出すほど熱くなる。朝方目を覚ましたときにはあゝ生きていたとホッと胸を撫で下ろす。降圧剤を服用し、ようやく安定した時つぶやいた言葉は「世の中こんなに静かだったかしら?」であるから笑ってしまった。約50日ぶりに元通りの体調に戻ったがその間、家族同僚、友人に大変な心配を掛けてしまった▼若い頃健康保険証を一年間使わず共済組合から表彰された事があったのに、近頃は数カ所の通院が必要となってしまった。そんな私に友人は、「80の坂を越えるまでが厳しいのよ、その坂を越えれば後はすずと楽になるんだって」と励ましてくれる▼ところで170年にベスト、180年にコレラ、190年にスペイン風邪、200年は新型コロナウイルスの蔓延。この流れをパンデミック100周年期説と言ふこと。「コロナ禍真っ只中、大変な時代に我々は生きていくのだ▼地球の未来の力基は環境問題にあることは確かである。数百年間感染症との戦いに挑み勝ち抜いてきた人類だが、これからは環境問題への一人一人の意識と取組みこそが大事なのだと思う。それが「新しい生活様式」の実践だと痛感する日々である。」(K)